

総務大臣訓示

本日、新たに総務省職員となられた 138 名の皆さん、総務省を選んでくださり、ありがとうございます。入省おめでとうございます。心から歓迎いたします。

皆さんがこれから携わる公の仕事には、二つの「せいとう性」が必要です。

一つは「正しく当てる」正当性です。これは道理に適っていることです。政策の正当性には、国民・国家に資するのか、公正なのか、効果的か効率的か、過去の経緯から適切か、未来へどんな影響をもたらすのか、が問われます。この正当性の確保が、官僚として皆さんに担う使命です。

もう一つは「正しく統べる」正統性です。政治権力が認められる根拠です。民主主義の我が国において、選挙によって政治に携わる私たちが担います。

二つの「せいとう性」を両立させるために、官僚と政治家が協働、協力して働くなくてはなりません。それ故、今日、政治家の私が皆さんに挨拶をさせていただいております。

政府の役割は、市場原理が中心であった経済の分野にも広がっています。一つは、経済安全保障、もう一つが「新しい資本主義」です。米国でも「モダンサプライサイドエコノミクス」が進められています。DX、GX や格差問題等の新たな課題に直面する現代にあ

って、人口減少の制約もある我が国にとって、潜在成長率を中長期的に押し上げるために、政府の役割が重要なのです。持続可能な成長政策が成熟した経済を前へ進める好循環を支えます。

総務省は、地方行財政、選挙、消防、情報通信、放送、郵便、行政評価、統計など幅広い業務を担っております。何れも国民生活に密着したもので、国や社会の基盤となるものです。

私たちはデジタル田園都市国家構想を進めています。地方創生は、日本の発展に必須であり、SDGsにつながります。広い意味での情報通信は、社会の全てに及ぶ最重要の基幹インフラで、その整備と研究開発に邁進しています。そして、私たちは今新たな挑戦を試みていて、自らの現在地を測る統計、るべき方向性を探る行政評価が、目標達成の道筋を示してくれます。

世界の何もかもの変わるスピードが速くなっている現代だからこそ、次の時代を担う若い皆さんに、大いに期待しており、皆さんの感覚や意見をどんどん取り入れていきたいと思います。総務省は、皆さんの声が響き、やりがいを感じられ、皆さんの仕事が日本のためになり、自分にとっての楽しいものとなるような組織を目指します。

活躍をお待ちしております。重ねて皆さんの入省を心から歓迎し、私の挨拶といたします。

おめでとうございます。よろしくお願ひします。